

平成 29 年度 ICT 活用“稼げる技術”短期習得実践道場

「ぶどう短梢無核栽培 かん水について」

1 ぶどう樹へのかん水について

(1) 水の役割は

- ア 新梢の伸長、果実肥大に必要
- イ 肥料の溶解(固形肥料を作物(ここではぶどう)が吸収可能なイオン化)に必要
- ウ 土壌微生物の活動に必要 ⇒ 地力窒素の有効化など
- エ 光合成に必要 ⇒ 炭水化物の生産などです。

2 かん水時期

(1) 重要なかん水時期は、発芽期、開花後、果粒肥大期です。

(2) かん水開始の目安

- ア 連続干天を基準とする方法
- イ 「テンシオメーター」の数値で決定する方法 があります。



写真 1 ぶどう短期習得実践道場「実践ほ場」に設置した「テンシオメーター」

- ・ 設置日 平成 29 年 5 月 23 日午前 10 時
- ・ 左 深さ 40 cm、右 深さ 20 cm の pF 値を測定
- ・ ぶどう主幹周りには「敷わら」をして土壌水分の保持に努めています

(3) 簡便な「テンシオメーター」によるかん水開始の目安について

ア これまでの果樹試験場等の試験例から、成熟期を除く「生育期間における数値の好適範囲」は、pF 2.3～2.5 程度です。数値がこれ以上になったらかん水を行います。

イ かん水量

1 回のかん水量は多くとも 30 mm 程度を限度とします。かん水過多は無駄になるだけでなく、透水性が不良の場合には、滞水によって悪影響（酸素欠乏による樹勢衰弱等）となります。

また、かん水量が少ない場合は、効果が期待できません。

3 その他

(1)「実践ほ場」の土壌について



写真2 「テンシオメーター」設置時に 検土杖（けんどじょう）で採取した土壌（地表から深さ20cmまで）

特徴① 〇の地表から深さ5cm程度は、腐植が多く「黒色」
※長年、「敷わら」や「刈り草」等が土壌に施され分解。一部は土壌に蓄積して腐植となります。
腐植は、土壌水分や養分の保持及び供給に役立ちます。

特徴② 5～20cmまでの土壌は「褐色」

特徴③ 土壌は触感から砂（特に細砂）が多く、「砂壤土」と判断しました。